

# 復興しなければ 草に覆われて 忘れられてしまう

○ほとんど報道されていませんが、先日、安倍首相が来県された際に、小千谷の西軍墓地を訪問されました。船岡公園の西軍墓地には、どんな歴史があるのですか。

小千谷市は戊辰戦争の激戦地の一つで、長州の吉田松陰門下で奇兵隊の参謀だった時山直八が戦死したのも小千谷です。戦死した長州藩士は極楽寺という寺に埋葬されていたのですが、明治四年に長州藩の御用商人をしていた井口喜代助という人が、自分の土地があった船岡山の頂上付近に全部で七十三基の墓を移して供養したのが始まりです。その後、明治の終わり

頃に、小千谷のあちこちの寺にあった薩摩藩や他の従軍した

西軍諸藩の墓も船岡山に移して、今のよう

な姿になりました。小千谷市民は「招魂場」と呼んでいます。桜の花見に訪れたりして馴染み深い場所です。今回の大地震で墓はほとんど倒れてしまい、大きな被害を受けましたが、その復旧にあたって山口県の皆さんから絶大な支援が寄せられ、その縁で、山口県出身の安倍首相が今回この地を訪れることになったものです。



小千谷北越戊辰史跡復興支援の会  
会長 野澤金一郎さんに聞く

聞き手・塚田清剛

○「史跡復興支援の会」を立ち上げることになった経緯は何ですか。

西軍墓地は市の公園の一部になっているのですが、役所としては宗教上のこともあって動きにくいということで、それならば市民有志で復旧しようということになったのです。私は観光ボランティアアガイドとして地元の振興のお手伝いをしていることもあって、会長を引き受けることになりました。山口や鹿児島や、他にも愛知、長野など西南諸藩にゆかりのある各県の県庁、市役所、商工会議所などに趣意書を送りました。特に山口県の反響が大きく、地震からはほぼ一年後の九月に山口、萩、下関の各市を訪れて大歓迎を受けました。遠く離れた越後の小千谷で、自分たちの先祖様が大事に供養されていたことが分かって、とても感激されていました。

○小千谷と長岡は隣接していますが、当時の対応は随分と違ったように思います。

小千谷は幕府領(天領)で、侍がいなかったということが大きな違いだと思います。当時、小千谷の縮布を商う商人は頻繁に京や江戸に行っていましたから、情報により世の中が変わることを知っていましたし、西軍進駐のおりには勤王思想の厚かった町役人衆は、町はずれまで行き西軍を出迎えました。また各戸の間仕切戸を外すことで、敵がないことを見せ、町は焼き払われずに済みました。

○支援の会の活動を振り返って、現在の心境は

倒れた墓をあのままにしておけば、草に覆われて、やがて忘れ去られてしまいかねなかったこの墓地を、「死ねばみな佛」として祀ってきた先人たちの心と、その歴史を絶やしたく有りませんでした。小千谷の町の人たちは、これまで、このようにして守ってきたんだということの後世に伝えるのは私たちの責任ですから。今では墓地の掃除をしようと呼びかけると大勢の市民が集まってくれるようにもなりました。次は戊辰百四十年祭をやりたいですね。



復興後



被災状況